

学校だより



青葉が丘

《教育目標》
未来社会を築く力を身に付ける生徒の育成

令和4年11月 2日

避難訓練特別号

別海町立上西春別中学校

発行責任 校長 根本 渉

「自分で考え、判断し行動する」

10月27日(木)に避難訓練を実施しました。今回は「出火場所が1年生教室だったこと」と「防火扉が閉まっていたこと」がポイントでした。多目的ホールや講堂にいた生徒は、迷いながらも近くの非常口からすぐに避難できたようですが、教室にいた生徒(特に2,3年生は)は判断に困ったようです。

もしものときに役立つスキルを身に付けるためにも、今回の訓練がどうだったのかを振り返ることがとても大切です。良かった点と改善点をまとめましたので、しっかり読んで下さい。(○:良かった点 ●:改善点)

1 「緊急地震速報が入りました」という校内放送が入ったとき

- ほとんどの生徒が私語をやめ、放送に耳を傾けていました。校内放送は、状況把握のための大切な情報源です。
- 一部の生徒の私語がありました。日頃から、校内放送が入ったら話をやめて、放送を聞くようにしましょう。

2 地震発生中の様子について

- とても良かったです。今までの訓練の経験をいかし、みんなしっかり身を守っていました。もし、机やテーブルなどの隠れる場所がない場合は、壁にくっついて体を丸めると良いでしょう。

◆地震発生時にとる
「ダンゴムシのポーズ」



3 避難方法について

- 講堂やホールにいた生徒は、冷静に近くの非常口から避難できました。
- それぞれの教室ではリーダー的な生徒が中心となって声をかけ合いながら避難できました。災害時は、パニックになってしまい冷静な判断ができない場合もあります。こういった声かけはとても大切です。
- 各学年、しっかり整列して避難することができました。出口付近での混乱や転倒による事故の防止の観点から、列を乱さず、集団で整然と避難することが大切です。混乱の危険がない場合は、整列の必要はありません。
- 校舎から出た後も走らず集合できました。転倒の危険があるので、時間的な余裕があるときは歩くことが基本。
- 防火扉が閉まっていたため、火元に近い非常口から避難してしまいました。また、外に出てからも、火元側を通ってしまいました。今回は体育館側に向かうべきでした。
- ハンカチや腕で口を押えている人があまりいませんでした。マスクの上からでも押さえた方が良いでしょう。
- 防火扉の仕組みについて理解できていない人がほとんどでした。これについては先生方の反省点でもあります。

避難方法に正解はないかもしれませんが、今回の訓練の理想的な行動は次の通りです。

- 私語をしないで校内放送をしっかり聞く。
- 地震発生中は落下物から身を守る。机などがいない場合は、壁側で頭をおさえて、身を丸くする。
- 地震発生後は、避難口を確保するために、窓やドアを開ける。
- 火災が発生したら、窓を閉めて避難する。
- 講堂やホールにいた生徒は、近くの避難口から急いで避難する。
- 1年生教室にいた生徒は、すぐに教室から出て、1年生教室側の非常口か生徒玄関から避難する。
- 2年生教室にいた生徒は、教室の窓を閉めて、整列して、防火扉を通して、生徒玄関から避難する。
- 3年生教室にいた生徒も、教室の窓を閉めて、整列して、防火扉を通して、生徒玄関から避難する。
- 1年生教室側から避難した場合、1年生教室横を通るのではなく、体育館側を通して避難する。
- 避難する際は、姿勢を低く、ハンカチや腕で口を押える。



(文責:教頭 高崎 聡)